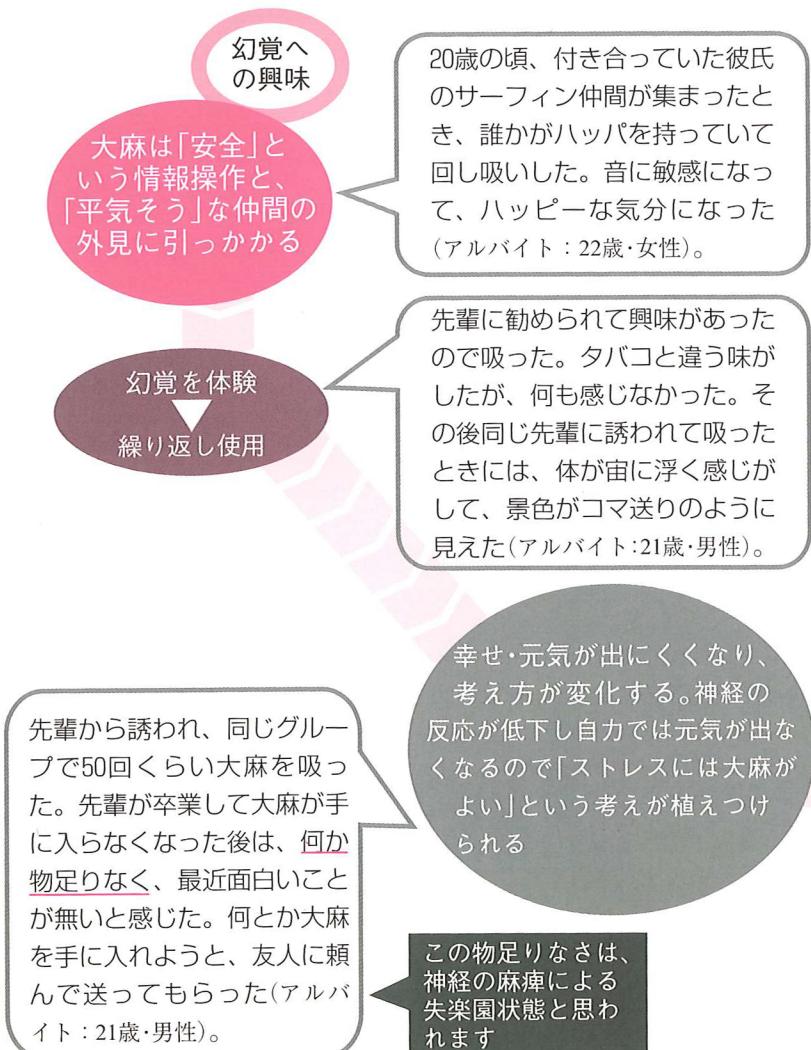


# 幻覚への興味が依存に進行

大麻はタバコと同じように煙を吸引して摂取されます。手軽に見えるところが落とし穴です。

## 脳の変化と心の相互作用



## どちらにしても…

大麻による幻覚には強い不快感や、恐怖を伴う**パッドトリップ**と呼ばれるものがあります。特に初回はそうなりやすいとされます。どんなに元に戻ろうとしてもできず、そのまま発狂してしまいビルの窓から飛び降りようしたり、精神病を発症する場合もあります。その後長期間トラウマに苦しめられる人もあります。

一方、**グッドトリップ**といって快感を味わってしまうと、今度はそれが忘れられず、もう1度、もう1度と依存症に陥ります。「宇宙の真理に触れた」、「魂の覚醒をした」などの幻覚にとらわれる場合もあります。たとえ就職などで使用をやめたとしても、大麻の記憶がある限り再使用の危険が付きまといます(事例は『弁護士小森榮の薬物問題ノート』(2009-10)より)。

就職した後は、付き合う仲間が変わって、大麻を吸うこともなかったが、人身事故を起こして仕事をやめてから、再び大麻を使い始めた。今回は、することがなく落ち込んだ気持ちになつたので、大麻でも買おうと思って出かけ入手した(運転手: 27歳・男性)。

短期留学中にホテルで。音楽が急によく聞こえ、ハイになつた。結婚後は使うことは無かつたが、仕事がうまくいかず、離婚したことなどから使用を再開した。次第に覚醒剤を中心に使うようになった(アルバイト: 39歳・男性)。

やめられなくなる or  
何年も経つから再使用  
そのまま、大麻依存症となるか、  
いったん、就職・結婚などで使用をやめても、何かのきっかけで再使用を始めてしまう。「大麻なしではやつていけない」と考えるようになる